

SHIRAKOBATO

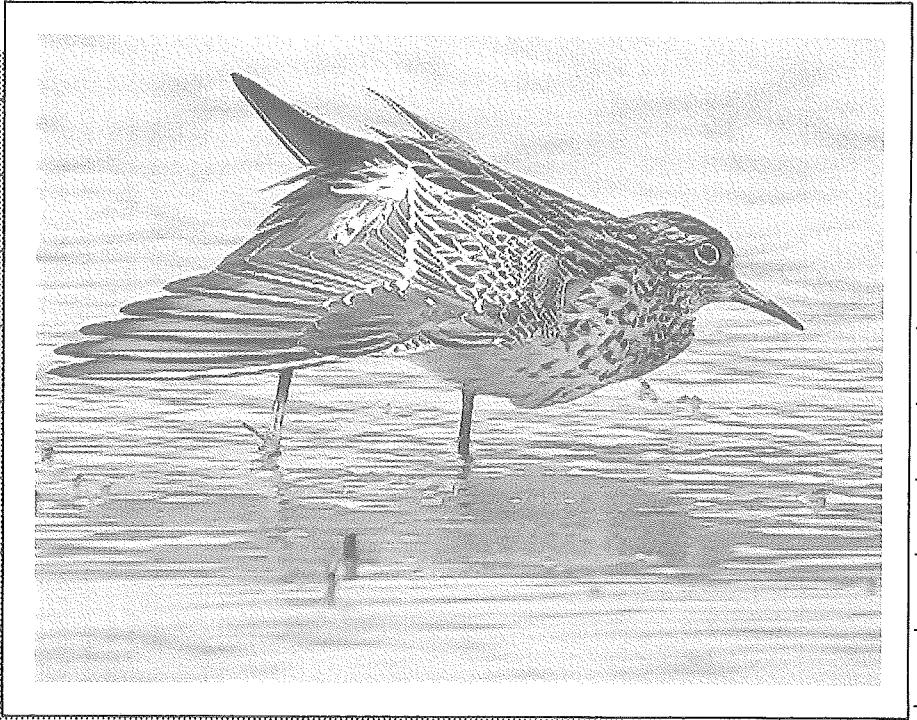
しらこぼと



1999. 6

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 182

日本野鳥の会 埼玉県支部

フィールドで繁殖調査を！

小荷田行男（浦和市）

本誌の特集にも、県内を中心として多くのフィールドが、鳥種リストを示し紹介されるようになりました。そこで今回は、従来の季節毎の鳥の生息に注目した観察から、もう一步ステップ・アップしたフィールドでの観察法を紹介します。

夏、フィールドに生息している場合、ほとんどのケースは繁殖を行っています。ステップ・アップした観察とは、フィールドでの繁殖の有無をチェックすることです。

繁殖確認の条件

ただし、夏、ある種が生息していたとしても、必ずしも繁殖しているとは限りません。では「繁殖を確認した」とはどのような条件で言えるのでしょうか？（参考：種の多様性調査鳥類生息分布調査全国分布調査マニュアル1998環境庁自然保護局）

まず成鳥に着目して

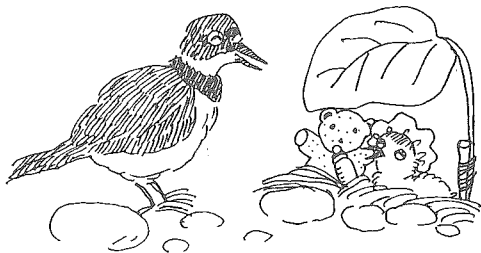
- (i) 成鳥が巣あるいは巣があるらしい場所（木のうろ）などに入出入りしている。
- (ii) 成鳥が抱卵または抱雛している。
- (iii) 成鳥が巣のあるらしい所に飛び込むと同時に、ヒナの餌をねだる声が聞こえる。
- (iv) 成鳥がヒナのフンを運んでいる。
- (v) 成鳥が巣のヒナに餌を運んでいる。
- (vi) 擬傷が見られる。

巣について

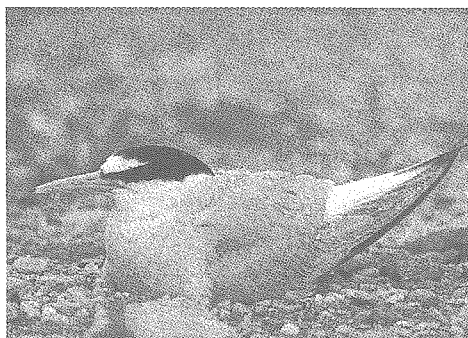
- (vii) 巣立ち後の本年使用された巣がある。
- (viii) 卵のある巣を見た。
- (ix) 成鳥が使用している巣の近くで卵殻が見つかった。

ヒナについて

- (x) ヒナのいる巣を見た。
- (xi) ヒナの声聞いた。
- (xii) 巣立ちヒナを見た。



（忍田歳子）



コアジサシ（外圍たけの）

繁殖可能性の条件

繁殖確認はチェックできなくても、繁殖の可能性がある場合の条件は、次の通りです。ただし冬鳥、旅鳥のときは対象外です。

まず成鳥について

- (i) 対象の種が営巣し得る環境で、繁殖期にキツキ類のドラミングを含めて、さえずりを聞いた。
- (ii) 求愛行動を見た。
- (iii) 交尾行動を見た。
- (iv) 威嚇行動、警戒行動により、付近に巣またはヒナの存在が考えられる。
- (v) 罅を除いて巣があると思われる所に成鳥が訪れた。
- (vi) 巣穴掘りを含め、巣作りを見た。
- (vii) 成鳥が巣材を運んでいる。

巣について

- (viii) 本年作られたらしい巣を発見したが、卵、ヒナもなく、成鳥が来るのを確認できなかった。

ヒナについて

- (ix) 家族群（メス、オス、ヒナ）を見た。

繁殖記録の取り方

フィールドにおける繁殖記録の基本は5W1Hです。つまり

When (いつ) : 観察した年月日、時刻。

Where (どこで) : 再調査ができるように。

Who (だれが) : 種名、オス、メス、ヒナなど。

Which & How (なにがどうした) : 上述の成鳥/巣/ヒナの繁殖確認または繁殖可能性の条件を記入。

Why (なぜ) : 観察結果の理由。
をフィールド・ノートに記録していきます。



コゲラ (菱沼一充)

繁殖調査の注意点

種や個体により、例えば抱卵中や抱雛中の親鳥に、数mというような距離に人間が近づくと、繁殖を放棄する場合があります。

小鳥の場合、最低でも20m以上、タンチョウなど神経質な種では100m以上離れたところから観察しましょう。

長い望遠レンズを向けて巣を撮影することは止めましょう。鳥からレンズを見ると、デフォーメされた目が見え、びっくりして繁殖放棄してしまった例があります。

地鳴きで種の判定を！

繁殖期、森林や草原、湿原は樹々や草の葉でおおわれ、多くの鳥はそれらに隠れるように巣を営みます。当然ながら巣の近くでは小鳥と言えども安全のためさえぎりません。しかし、情報伝達の手段、会話に当たる地鳴きはします。繁殖調査は地鳴きで種の識別ができればその確度が上がります。

地鳴きでの識別のポイントは、さえぎりとの声の質が同じことです。森林の下生えで営巢



アオバズク (菱沼一充)

するウグイスとミソサザイ、地鳴きはよく似ていますが、そのさえぎりはご存知の通り全く違います。両種のさえぎりの声の質を覚えておけば、慣れてくればチイッと云った地鳴きだけで種の判定ができるようになります。

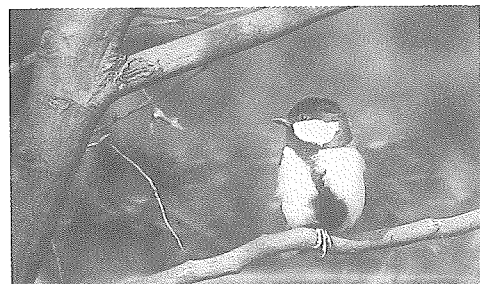
フィールドを持って鳥の観察を行っている方でしたら、春夏秋冬に生息する種は既にご承知のことと思います。さえぎりに加えて地鳴きで種の識別ができるようになれば、繁殖調査のみならず、森林や草原、湿原利用の立体構造が明らかになってくるでしょう。

埼玉における繁殖期

埼玉における繁殖期は種によって、または標高によって異なりますが、おおよその目安として4月中旬から7月いっぱいを考えて下さい。ただし、この時期でも渡りを行っている種もあることをご注意下さい。

おわりに

繁殖の可否は、餌と多少の安全性が必要な越冬と異なり、大量の餌と高度の安全性が要求され、フィールドの生態的質を表す指標となります。特にタンチョウなど原生的自然のみに生息する希少種の繁殖の可否は、正に環境そのものが問われています。



シジュウカラ (菱沼一充)

1年間も、文化センターの“先生”をやってしまったのです

藤掛保司（川越市）

●発端は気軽に

1997年7月、NHK川越文化センターから当支部に、バードウォッチング講座講師派遣の依頼が届きました。役員会で検討して、場所が川越だから、藤掛が内容を打診するようになるといふことになり、気軽にご挨拶に向かったのが発端です。

いくつかやりとりがありました。結局文化センター側の強い要望を受けて、1998年4月から、月に1回の野外講座を半年単位で実施すること、支部のリーダー諸氏のご協力をお願いして、私が講師をつとめること、などが決まりました。

文化センターの方では、2月からリーフレットや新聞折り込み広告での一般公募を始め、私の方は、基本理念を「人と人」「人と鳥」「人と自然」と決めて、各月の講座の進行段階と季節を考えた探鳥地を設定し、それぞれの探鳥地に近い幹事やリーダーの皆さんに協力をお願いし、チェックリストの作成、販売用図鑑の用意など、準備を進めました。

●途中で反省して

文化センターの募集人員は30名と聞いていたので、1回10名のリーダーを依頼してあったのですが、応募者数が3月16日になってもたったの6名！ それでもぜひ開講したいといふので、私としてはリーダーの皆さんに申し訳なく、大きな誤算に反省しきりでした。

●それでも開講して

開講は4月5日（日）。センターの中森支社長、担当の田中明氏、7名の受講者に5名のリーダーが一室に集まり、まずは挨拶と自己紹介から始まりました。

室内講座で私がバードウォッチングの基礎知識について、内田孝男リーダーがバードカービングを見せながら野鳥の特徴について話をした後、いよいよ野外講座です。

川越喜多院はお花見真っ最中。婦人会の踊りを横目に、双眼鏡の取扱い、目標の鳥キジ

バト、桜の蜜を求めて飛びかうメジロやヒヨドリ等をマンツウマンで説明し、11種が観察できました。

●思い掛けなく期間延長

受講者が少ないのに、当初半年の予定だったのが、更に半年続けてほしいと強い要望があったのは意外でした。結局1年間で、2回の室内講座と、次の12回の野外講座を実施しました。

1998年4月5日	川越市	喜多院
5月3日	浦和市	秋ヶ瀬公園
6月7日	滑川町	森林公園
7月6日	栃木県	奥日光戦場ヶ原
8月2日	千葉県	谷津干潟
9月6日	川越市	伊佐沼
10月11日	川越市	西川越
11月1日	富士見市	柳瀬川
12月6日	千葉県	船橋海浜公園
1999年1月10日	狭山市	智光山公園
2月7日	川本町	荒川河原
3月7日	東京都	東京港野鳥公園

この12回で観察できた野鳥は合計104種、指導協力・参加協力して下さった幹事・リーダー・会員の皆さんは、合計30名にのぼりました。お名前を全部ここに掲載できないのは申し訳ありません。

更に期間延長してほしいとの話もありましたが、役員会でもいろいろ相談して、受講者数の割りに講師・リーダーの負担が大きいことから、とりあえずこれで終わりということにしたのです。

●終わり良ければ……

資料作成、下見、結果報告など、私自身も様々な点で大変勉強になった一方、当然いくつかの反省点もありましたが、当支部での野外指導の要領がそのまま活用できることを確認できました。また、受講者の全員が支部に入会して下さったのはうれしい結末でした。

今さら聞けない質問コーナー

Q：先日の探鳥会の鳥合せの際、スズメの平均寿命が1年3ヶ月と意外に短命なこと、長寿のものでも4年という話が出ました。そこで他の種では如何かと図書館で参考文献を調べてみましたが、データが見つかりませんでした。鳥の代表的な種の平均寿命を教えてください。（上尾市・大友慎也）

A：適当な資料が見当たらずに困ってしまって、苦しまぎれに都市鳥研究会の唐沢孝一さんが昭和59年に書いた『野鳥用語小辞典』という本（ニュー・サイエンス社発行）で「寿命」の項を引いてみたら、概略次のようなことが出ていました。

病気・飢え・捕食などで死亡する「生態的寿命」と、飼育下など十分に条件が整っているところで老衰によって死亡する「生理的寿命」は違いますが、小鳥類の生態的寿命は、平均1.5年とされています。ところが、いったん成鳥になると6～7年は生きるということです。幼鳥の時の死亡率が高いのが、平均をかなり短くしていると言えます。

野外での最高寿命としては、セグロカモメ36年、ユリカモメ30年、ツバメ12年などの記録があり、飼育下では、ワシミミズク68年、オウム56年、モイロペリカン54年などの記録があるということです。

野鳥の寿命に関してはまだまだあまり情報が整っていないと思われませんが、より良い資料をご存じの方は、編集部までお知らせ下さい。（編集部・海老原）

トリキチガイと言われてます 徳田潤子（幸手市）

1年ほど前に庭でぱったりメジロに出会って以来、トリトリ……でした。以前から野鳥に関心はあったのですが、こんなに身近に来ているとは、全然気付かなかったのです。

以後、いつものステレオをストップして耳を澄ますと、うるさいくらいヒヨドリ、ス

1口1,000円の自然保護

1口1,000円で気軽に参加できる自然保護活動として人気のあるバードメイト。今年度のシンボルバードは、タマシギのレディ。すてきなバッジが用意されています。

会員になるにはちょっと敷居が高いけれど、自然保護に役立ちたいという方も、もう少し里山保護に力になりたいという会員も、なんでもいから、とにかくバッジが欲しいだけという方も、みんな歓迎です。

お問い合わせは、本部会員センター（TEL03-5358-3510、FAX 03-5358-3608）の大蔵または坂本まで。

ズメの声に、いろいろな小鳥の声が聞こえます。今ではハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイの声の区別までつくようになったのです。うすらとんかちの私にとっては、大変な進歩です。

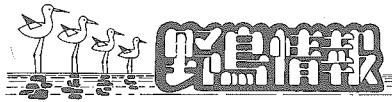
犬の散歩でカワセミと出会えた日は、1日ルンルンで、単純バカと家人は笑ってます。

「日本野鳥の会＝紅白歌合戦のラストに出場する特別な人達の集まり」というイメージがあったので、自分が入会するなんて、思いもよりませんでした。

同封の写真（下）は、昨年11月29日、渡良瀬の探鳥会に参加した時のものです。望遠鏡の行列には、度胆を抜かれました。やっぱり他の人から見たら、特別な人達の集まりなんだと実感させられました。

私もそのひとりになってしまいました。トリキチガイと言われてます。





北本市石戸宿 ◇3月2日、ベニマシコ♂2羽♀1羽、ミソサザイ1羽、カシラダカ群れ中にミヤマホオジロ1羽、ルリビタキ♀1羽。ノスリ1羽がカラス2羽にモビングされていた。3月8日、ミソサザイ2羽、斜面林下の湿地で飛びかっていた。ベニマシコ♂1羽♀1羽、アカハラ1羽、シロハラ2羽、アカゲラが樹間を移動していた。3月14日、ベニマシコ♀1羽、オオジュリン3羽、クイナが高尾の池で水面スレスレに飛翔、ミソサザイ1羽（大友慎也）。

坂戸市鶴舞地区 ◇3月7日午後3時30分頃、高麗川沿いの林でヒレンジャク2羽、キレンジャク1羽、木の枝から地面のジャノヒゲの群生に降りたり上ったりを繰り返して、実を食べているようでした。3月9日午前8時30分、ヒレンジャク3羽、キレンジャク1羽（坂口稔・和子、増尾隆・節子他4名）。

浦和市白幡沼 ◇3月12日午後5時頃、ツバメ1羽、初認（青山恭之・博子）。◇4月13日、アカエリヒレアシシギ1羽（海老原教子）。

川本町荒川明戸堰上流 ◇3月13日、コハクチョウ約90羽、イカル1羽、シメ4羽、イカルチドリ2羽、シロハラ1羽、ウグイスのさえずり（後藤康夫）。

大宮市日進1丁目 ◇3月18日、ヒガラ1羽、キクイタグキ1羽、いずれも早口で鳴いていた。ツミ1羽上空を旋回。4月4日、満開の桜の枝にヒヨドリ多数。ヒガラ



コアジサシ（角田きみ子）

2羽、ビンズイ4羽、シメ1羽。ヤマシギ1羽、林の地上から大きな羽音で突然飛びだして驚いた（浅見健一）。

熊谷市大麻生 ◇3月23日、ヒレンジャク10羽以上、10m近くまで接近して来て、逆にウォッチングされた。荒川河畔でクサシギ1羽（大友慎也）。◇4月15日、アマツバメ2羽、イカル、ノスリの鳴き声、ルリビタキ♀1羽、ヒガラの群れ、ニュウナイズメ数羽、ハヤブサ1羽（大友慎也）。

大宮市三橋1丁目 ◇3月24日、イワツバメ4羽（浅見健一）。

浦和市下山口新田 ◇3月26日、シマアジ♂1羽、日の覚めるような夏の粧いで休息。タシギ3羽、イソシギ1羽、イカルチドリ1羽（大友慎也）。

上尾市大谷本郷 ◇3月26、27日、4月1日鴨川でタシギ1羽、タカブシギ2羽、ベニマシコ♂1羽（大友慎也）。

JR大宮駅 ◇3月29日、そごうデパート付近でチョウゲンボウ1羽、鋭い声でよく鳴きながら飛び回っていた（浅見健一）。

上尾市戸崎 ◇4月1日、鴨川沿いの草原でオオジシギ1羽、放し飼いの犬に追い出され、「ゲッ」と鳴いて近くの林の茂みに消えた（大友慎也）。

戸田市道満彩湖 ◇3月30日、管理橋付近でイワツバメ3羽（倉林宗太郎）。◇4月10日、シメ夏羽1羽、キジ♂1羽、クイナ1羽、カンムリカイツブリ夏羽1羽、ハシビロガモ♂4羽、オカヨシガモ♂3羽♀11羽、ヤマガラ1羽（高田範之）。◇4月16日、北部棧橋そばのブイ上にコアジサシ5羽。4月23日、西側草原でオオヨシキリ2羽（倉林宗太郎）。

蓮田市黒浜 ◇4月1日、黒浜笹山の田んぼでムナグロ10羽。中間羽がほとんどだったが、1羽のみが大きめで「胸黒」らしさを見せていた（道祖土修一）。◇4月10日、ムナグロ9羽、今期初認。胸がまだ完全な黒になっていないものがほとんど。まだ水の入っていない田んぼで、ドバトに混じり採餌していた（田中幸男）。◇4月25日午前11時頃、黒浜沼南側の田んぼで、コシャ

クシギ1羽、ムナグロの群れの中に見つけた。大きさはムナグロとほぼ同じ位で、くちばしが下に曲がっていた。一見して、コシヤクシギと判断できた（中島康夫、郁夫）。

秩父市羊山公園 ◇4月5日、キレンジャク2羽。4月12日、クロツグミ（山岸昭治）。

大宮市三橋5丁目 ◇4月4日、鴨川第1調節池「ウエットランド」でハシビロガモ♂1羽♀1羽、ダイサギ1羽（目先：黄緑、嘴：黄色から黒に変色中）、コチドリ1羽、セグロカモメ1羽、ツバメ11羽、イワツバメ1羽、タヒバリ2羽、ホオアカ1羽、オオジュリン5羽、カワセミ♀1羽（浅見健一）。

三郷市江戸川 ◇4月5日、中川排水機場付近でトビ1羽。JR武蔵野線鉄橋下流でオオジュリン2羽（岩瀬和志）。

北本市JR北本駅付近 ◇4月5日、住宅街の餌台でヒレンジャク6羽、キレンジャク1羽、リンゴをついばんでいた（大友慎也）。

岩槻市岩槻文化公園 ◇4月5日、アカハラ♂1羽さえずっていた。コムドリ♂1羽一休み後、飛びたった。4月10日、シロハラ♂1羽、さえずり。すぐ近くで鳴いているのに姿はなかなか見つからなかった。さえずりを今シーズン聞いたのは初めて（中村榮男）。

浦和市秋ヶ瀬 ◇4月5日、ピクニックの森でアカハラ1羽がさえずっていた（大友慎也）。◇4月7日、B区でムナグロ12羽（倉林宗太郎）。◇4月9日、B区でムナグロ13羽、コチドリ7羽、タシギ1羽、チョウゲンボウ1羽。4月23日、同地でオオモズ1羽、電柱の支線にとまった。オオヨ



アマサギ（外園たけの）

シキリのさえずりを今シーズン初めて聞く。アマサギ1羽（大友慎也）。

熊谷市荒川 ◇4月7日、荒川大橋付近でアマツバメ3羽。4月10日、アマツバメ2羽（森本國夫）。◇4月10日、熊谷大橋～荒川大橋間で畑の中の小さな立ち木でアリスイ1羽、ゴルフ場裏手でアカハラ♂1羽、シロハラ2羽、上空でアマツバメ、ツバメ、イワツバメ各数十羽。ノスリ1羽、枯木で羽を休めていた。アカゲラ、カワセミ1羽（後藤康夫・喜久子）。

東秩父村二本木峠 ◇4月10日、ウソ♂1羽♀2羽、カシラダカ30～40羽、アカゲラ♀1羽、アオゲラ、イカル、シメ（後藤康夫）。

行田市さきたま古墳公園 ◇4月14日午前7時、丸墓山裏でクロツグミ♂1羽、地上でさかんにミミズを食べていた（寺山聖二、逸見嶮）。

〔編集部註〕このページには、会員から寄せられた野鳥情報をそのまま掲載します。支部の公式記録ではありません。

季節感のある情報、見慣れた鳥の思いがけない行動や生態なども、電話ではなく、郵便または、FAXでお寄せください。

表紙の写真

ウズラシギ（チドリ目シギ科）

春と秋のシギ・チドリ類の渡りが、年々少なくなっているように感じるのは、“思い出だけが美しい年齢”に近づいたせいかな。

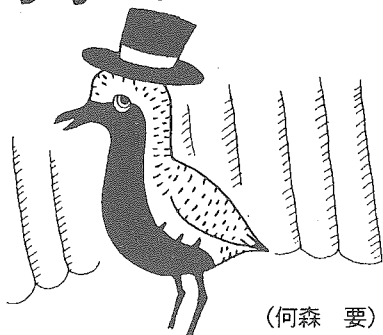
今春は、私の長年のフィールド、浦和市の大久保農耕地への渡りが特に少ないように思

う。治水橋の上流、大宮市土屋地区までベダルを踏み続けて、ようやくまとまった数のムナグロやウズラシギに会うことができた。

だんだん遠くなるじゃないか。

自転車鳥見人（浦和市）

行事あんない



茨城県・浮島湿原探鳥会 (要予約)

期日：6月5日(土)

定員に達しましたので締め切りました。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：6月6日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前より
北里メディカルセンター病院行きバス
8:40発にて、自然観察公園前下車。

担当：岡安、榎本、内藤、大坂、立岩、川那部、永野(安)、水野(京)、島田、高(剋)、高(文)、山田

見どころ：バスも運行し交通の便の良くなった石戸宿。こんな近郊にもヨシゴイやカッコウがやってきます。オオヨシキリのさえずりをBGMに、探してみましよう。どんな鳥の子育て風景に出会えるか、期待がふくらみます。

浦和市・民家園周辺定例探鳥会

<差間コース>

期日：6月6日(日)

集合：午前9時、浦和市くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅西口バス1番乗り場より、大崎園芸植物園行き8:36発に乘車、念仏橋下車。

後援：浦和市くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤、工藤、笠原、吉岡(洋)、若林、倉林、松堂、前澤

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

見どころ：この時期、鳥たちは子育てに一生懸命です。そんな親子に心づかいをしながら、ヨシゴイやコアジサシが飛び交う緑一面の調整池周辺を、ゆっくりと歩いてみませんか。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：6月13日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乘車。

担当：和田、森本、中島(章)、石井(博)、倉崎、松本、中里、高橋、後藤

見どころ：雨が多い時期ですが、空にはコアジサシのスマートな飛行、アシ原のオオヨシキリの声、林の中からカッコウの声…なかなかいいものです。それに、岸边にたたずむササゴイの姿があれば、最高ですね。雨具の用意もお忘れなく。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：6月20日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、浦和市立郷土博物館前。

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、手塚、伊藤、渡辺(周)、笠原、倉林、若林、兼元、森、清水、前澤、松堂

見どころ：見沼たんぼも、すっかり緑が濃く

なった。いつも探鳥会で歩く道端に市民農園ができ、見沼たんぽを保全する動きも見られるようになった。芝川の雨上がりに、カルガモの親子が泳ぐ。アシの葉でオオヨシキリが鳴く。いつものように気軽にお出かけください。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：6月20日（日）

集合：午前9時、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越8:24→坂戸にて越生線乗換え8:43発。または寄居7:26→小川町乗継ぎにて坂戸乗換え。JR川越線大宮7:55→川越にて東武東上線乗換え。

担当：藤掛、高草木、石井（幸）、青山、久保田、志村、増尾、佐藤（壮）、吉田（時）、林（久）、上野

見どころ：94年以来の探鳥会で70種を確認しています。昨年はこの時期に36種観察しました。とても楽しめる場所です。3月にはヤマセミを静かに営巣させようと、鳥合わせの場所も変えました。一方、坂戸市等にも保護の協力を要請しました。無事にひなが育ってくると最高ですね。

『しらこぼと』袋づめの会

日時：6月26日（土） 1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

支部総会のご案内

日時：6月27日（日）午後1時30分から

会場：埼玉会館（浦和市）

くわしくは、12ページの「連絡帳」をご覧ください。



マヒワ（海老原美夫）

1999年夏「鳥の目から環境を調べよう！」のお願い

研究部

自宅から半径50m以内で5月10日から7月10日までの間に観察された鳥を、本号に同封する調査はがきで回答頂く調査を行います。環境と鳥の関係を見る調査ですので、ドバト、セキセイインコなど、かご抜けの鳥もご記入下さい。よろしくお願い致します。

上尾市・八枝神社探鳥会（夕方）

期日：7月3日（土）

集合：午後6時、上尾市平方八枝神社境内。

交通：JR大宮駅西口、東武バス8番乗り場より、平方行き17:18発にて終点下車。

担当：浅見（健）、阿久沢、立岩

見どころ：昨年は思わぬアクシデントにより中止となりましたが、今年は無事に良い結果をと思いながら、お馴染みの大ケヤキの下で、静かにそっと観察してみましよう。虫の鳴くようなヒナの小声が聞けるといいですね。

注意：蚊の多いところです。防虫スプレーがあると便利です。

群馬県片倉町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：7月4日（日）

集合：午前9時15分、東武日光線片倉東洋大前駅。または午前9時30分、片倉町運動グラウンド入口（中央エントランスと北エントランスの中間）。

交通：JR宇都宮線大宮8:19→栗橋8:53着、栗橋にて東武日光線乗換え8:58発。または東武日光線新越谷8:20→春日部8:36→栗橋8:58→片倉東洋大前9:10着

担当：橋口、入山、内田、高（剋）、高（文）、田邊、玉井、中里

見どころ：真夏の渡良瀬は久しぶりです。歩く距離を考えて集合場所を変えました。北エントランスに近い親水ゾーンを中心にオオヨシキリ・コヨシキリ、託卵を狙うカッコウを見ます。売店は駅のみ。暑さ対策を万全に。

行事報告



2月27日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 15人

荒木恒夫、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲四郎、
工藤洋三、倉林宗太郎、佐久間博文、篠原東彦、
島田恵司、島田沙織里、馬場友里恵、福井昭子、
松村禎夫、百瀬修、山野庸子

2月28日(日) 岩瀬市 岩瀬文化公園

参加: 58人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ カルガ
モ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロ
ガモ ハヤブサ コジュケイ ハマシギ イソシ
ギ セグロカモメ シラコバト キジバト カワ
セミ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ
タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロ
ハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ
ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シ
メ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブ
トガラス (38種) 朝から大分風が強く吹き、出現
鳥が少ないのではと心配したが、スタート間もな
くカワセミのお出迎いで一安心。お目当てのア
リスイは出てくれなかったが、途中と鳥合わせ終
了直後の2回もハヤブサが頭上に飛来、低空を飛ん
だのでしっかり観察でき、皆さんが喜んでいた。

(中村榮男)

2月28日(日) 浦和市 秋ヶ瀬公園子供の森

参加: 38人 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ
コガモ セグロカモメ キジバト アカゲラ コ
ゲラ ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ
ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シ
ジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラ
ヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボ
ソガラス ハシブトガラス (29種) 土手の上から
富士山、秩父の峰々、浅間山までがすばらしいパ
ノラマを見せてくれたが、強風にあおられるよう
に林の中に。一転して、風があたらずほっと暖か
い陽だまりが待っていて、この差を体験できたの

が、この日の収穫の大きな一つ。座り込んで待つ
うちに、アカゲラ、ウグイスなどが寄りついてきた。
解散後、お弁当を食べ終わったところにベニマシコ
が現われて、バス停まで行く途中では19羽のタゲ
リ。バスに乗ってからハイロチュウヒが飛ぶの
を見たのです。みんなごめんね。林の方に戻った
人たちは、どんな鳥に会えたかな。(海老原美夫)

2月28日(日) 富士見市 柳瀬川

参加: 37人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ マガモ カルガモ
コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ
キンクロハジロ チョウゲンボウ イカルチドリ
タゲリ イソシギ タシギ ユリカモメ セグロ
カモメ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセ
キレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ
モズ ツグミ ホオジロ カワラヒワ スズメ
ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (32
種) 風が強く鳥見にはちょっときついかなどと思
いながら開始。アメリカヒドリが出たとのことで
よく見たが交雑種で残念。ここの目玉のタゲリは
朝はいなかったが、探鳥会には出て、初めての参
加者も見られて一安心。後は、川の中のタシギが
何羽いるか皆で探してみた。(佐久間博文)

3月7日(日) 寄居町 玉淀河原

参加: 41人 天気: 曇

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ トビ
イカルチドリ イソシギ キジバト ヤマセミ
カワセミ アオゲラ アカゲラ コゲラ キセキ
レイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ
ヒヨドリ モズ レンジャクsp ジョウビタキ
ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジ
ロ ホオジロ イカル シメ スズメ ムクドリ
ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 川沿い
の並木路を歩くと20羽近いイカルの群れに出会う。
玉淀河原に降りると、はるかかなたのヤマセミを
Hリーダーが発見。近くに寄り、じっくり観察し、
♂♀の区別や冠羽の役割などを説明した。鉢形城

趾に着くと梢にレンジャク1羽が止まっていたが、どちらか識別できなかった。対岸を見ると、なんとヤマセミ♂♀が仲良くとまっていた。玉淀河岸でのヤマセミ出現率は高いのだ。(小池一男)

3月7日(日) 大宮市 染谷見沼自然公園

参加: 33人 天気: 曇

カワウ アオサギ カルガモ コガモ ハシビロガモ ホシハジロ チョウゲンボウ コジュケイバン タシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 今にも雨が降り出しそうな中、開始する。参加者一同の願いが通じたのか、途中から空が少し明るくなった。見沼田んぼではヒバリがさえずり、寒いが春の息吹きを充分に感じた。途中、雑木林でオオタカがドバトを捕食したと思われる跡を見る。後半思いもかけずアカハラが出現し、初認の参加者も何人かいてリーダーもほっとする。鳥合わせの頃になって、とうとう雨が降り出したが無事終了した。(工藤洋三)

3月14日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 63人 天気: 晴

カワウ コサギ トビ オオタカ コジュケイキジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ キレンジャク ヒレンジャク シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 下見で約30羽のレンジャクの群れを確認。コースを野鳥の森としたが、60余名の列を振り返るとプレッシャーがかかった。しかし、森に入るとすぐに予定の場所に群れが見えた。ヒだ! キだ! の声が飛び交う中、頭上の枝にまで群れがとまり、ヒレンジャク、キレンジャクの違いがじっくり観察でき、全員大感激のフィナーレ。(和田康男)

3月21日(日) 浦和市 三室地区

参加: 46人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ チョウゲン

ボウ キジバン タシギ キジバト カワセミコゲラ ヒバリ ツバメ セグロセキレイ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) モクレン、ハクモクレン、モモ等の花が咲き乱れ、見沼田んぼは春。風がやや冷たいが、参加者は元気一杯。カワセミは今月も連続出現し、ツバメが芝川の上を飛んで今年の初認。バンも3羽アシの間から泳いで、そろそろ鳥たちは子育てのシーズン。

(楠見邦博)

3月21日(日) 坂戸市 高麗川

参加: 48人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ オカヨシガモ トビ コジュケイキジバン イカルチドリ イソシギキジバト ヤマセミ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ イカルシメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) 坂戸市役所で入手、配布したハイキングマップにはヤマセミの写真が掲載されていて、期待をふくらませてのスタート。ツバメ・イワツバメを初認。そしてイカルの群れが田んぼから飛び立った時に、狩野君が21羽とカウント。お目当てのヤマセミは、新しい巣に出入りしているために、いつもの終点の場所を早々と引き上げ、城山橋まで戻って鳥合わせを行った。今年こそ、巣を放棄しないことを祈って。(藤掛保司)

3月27日(土) 栃木県日光市 東照宮裏山

参加: 32人 天気: 雨

キジバト イワツバメ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ カワガラス ミソサザイ エナガ シジュウカラ アオジ スズメ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (14種) 途中から本格的に雨が降り出したが、予定したコースは歩いた。大谷川では2羽のカワガラスをじっくり見ることができた。お目当てのミソサザイは雨のためか姿が見られず、何度か鳴き声が聞こえただけ。遠路参加された方、御苦労様。これにこりず、また参加してください。(中島康夫)

連 絡 中 長

●支部總會のお知らせ

日時：平成11年6月27日(日)

午後1時 受付開始

午後1時30分～2時30分 記念講演

午後2時30分～4時30分 総会

会場：浦和市・埼玉会館7A会議室

交通：浦和駅西口から県庁通りを県庁に向か
って西進、徒歩約5分右側。

記念講演の講師・テーマ：岩下路子(本部会
員センター業務室長)「会員との接
点・会員センターから見た野鳥の会」

総会の議題：平成10年度の事業報告と決算報
告。平成11年度の事業計画案と予算
案。平成11年度の役員選出。

参加資格：埼玉県支部の会員に限りますが、
支部会員であれば、会員の種別にかか
わらず、どなたでも参加できます。

年に1度、支部の規約に基づいて活動方針
の基本を決めていく大切な総会です。全国の
支部によっては、いろいろな事情から総会を
開いていない支部もありますが、当支部は毎
年欠かさず開催しています。活発な意見交換
が、支部活動のエネルギーの源です。

総会後は、支部事務局に場所を移動して懇
親会を開く予定です。こちらにもどうぞご参
加ください。

●ヒナを拾わないで!

今年も恐怖の誘拐シーズン。この季節、支
部事務局に一般の方からかかってくる電話の
ほとんどは、誘拐犯からのものです。

と言っても、もちろん本物の誘拐犯ではな
く、巣立ちヒナを「保護」した方々です。

ヒナ達は、多少羽がはえ始めたような、ほ
とんど飛べない状態で、早くも巣立ちをし
ます。そういうヒナを道端に見かけると、つい
手を伸ばして「保護」してしまうわけですが、
近くにつき添っていた親鳥(人が近づい
たので一時身を隠しているでしょうが)にし
てみれば、目の前で「誘拐」されたと同じこ
とになるわけです。

地面に降りているヒナを見かけたら、その

ままにして、なるべく早くその場から離れて
ください。もしも誰かから、「保護」してき
たと相談されたら、なるべく早くもとに戻し
て、親子再会できるようにアドバイスしてあ
げてください。

「保護」しないのが、一番の保護です。

●ごめんなさいコーナー

5月号9ページ、袋づめの会が「5月28日
(土)」となっていました。これは「5月29
日(土)」の誤りでした。28日(金)に袋づめに
来る人は、多分いないと思いますけど。

●6月の事務局 土曜と日曜の予定

6日(日)普及部会議。(今月だけ日曜日に
開催します。ご注意ください。)

12日(土)編集会議、研究部会議。

19日(土)校正作業。

20日(日)役員会議。

26日(土)袋づめの会。

●会員数は

5月1日現在3,072人です。

活 動 報 告

4月10日(土)事務局整理(渡辺泰子)。

4月17日(土)校正作業(海老原美夫・大坂
幸男・喜多峻次・喜多彌生・藤掛保司)。

同日 事務局整理(丹茂子)。

4月18日(日)校正作業(山部直喜)。

同日 役員会議(司会：楠見邦博、決算予算
など・その他)。

4月26日(月)5月号を郵便局から発送(倉
林宗太郎・藤掛保司)。

編 集 後 記

4月下旬、近所でコゲラのドラミングが1
週間くらい続いた。見たら、数軒先の屋根の
上、テレビアンテナのコード部のベルのよう
な形をした部品をつついていて、いい音が響
いていた。コゲラも、場所によっては、いろ
んな楽器を手に入れるものだ、感心して
しまった。(佐久間)

『しらこぼと』1999年6月号(第182号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336-0012 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
インターネットホームページ <http://www.bekkoame.or.jp/ro/wbsj-saitm/>

住所変更・退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
(財)日本野鳥の会会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事は上記ホームページに転載されることがあります。
本誌から、またはホームページからの無断転載は、かたくお断わりします) 再生紙使用